



母が帽子をかぶせると、2歳の娘は鞆を手にとつて「わたしはちよつと外国へ。」というのが口ぐせだった。。それから40年、娘は、ニューヨークで映画を作り始めた。きっかけは職場の同僚が書いたユダヤ人女性の罪悪感というエッセイ集だった。その出版記念パーティーで、私の中にも「子供のころあれほどあこがれた外国なのに一方で日本を飛び出してしまった罪悪感」があることに気がついた。そこで、この本の編集者と立ち話。「この本の日本女性版も面白いと思う」と、彼女は即答。「だめだめ、全ページ白紙」つまり、彼女の目には、日本女性は、おとなしく主張しないと見えているのだ。その瞬間、ここで黙っていたら女が癡る！日本女性の強さや主張がみえる作品を世界に向けて送り出そうと決心。NYに住む日本女性たちに話を聞き回った。「日本を出た理由」「罪悪感」「日米の働き方の違い」「子供と仕事の両立」。彼女達の話は、親世代との比較につながり、聞き手の私の頭の中で、母と娘の姿がくっきりと見えてきた。罪悪感から始まった映画は、母娘3世代に渡る映画へと成長していった。



上映に寄せて

東日本大震災が起きた時、この映画の上映のために沖縄にいた。そして津波警報が出て逃げている時、9.11を感じた。あの日、私は被災した。テロ攻撃と自然災害はもちろん違う。しかし、被災者が生活と心を復興させるのに時間がかかることは似ている。7回引っ越し、5年かけて生活を立て直した。そして心の復興のために、この映画を作り始めた。途中何度もめげそうになり、苦しかったが、あきらめないで作り続けた。だから今こそこの映画で、日本に住む人々たちを励ましたい。あきらめなければ、大丈夫だということ。映画には、9.11にあの場所から逃げた8歳の娘や日本で心配していた母がでてくる。そして私の心の復興を支えてくれたニューヨークで頑張る女性たちがでてくる。彼女達の心からの思いは、きっとあなたにも何かを語りかけてくると思う。

監督：我謝京子

ドキュメンタリー映画監督・ライター放送記者

1963年東京生まれ。高校時代には、AFSでオレゴンに留学、大学3年でマサチューセッツ州立大学アマースト校に留学。1987年上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業、テレビ東京入社、報道記者となる。1993年フルブライトジャーナリストとして米国留学中に娘アンナを出産。帰国後は、外務省担当記者から特集記者、少子長命ドキュメンタリーディレクターとなる。2001年4月、ロイターに転職、ニューヨークに母子単身赴任。2001年9月11日、被災。2004年、フォーダム大学院教育学部卒業。ようやく被災生活から立ち直ったのをきっかけに、長年の夢、自主製作映画に着手。月曜日から金曜日はロイターの経済報道記者、週末は、映画の取材と自宅での編集を重ね2009年、「母の道、娘の選択」が完成。ニューヨーク在住。

5/7(土)~5/27(金) 10:30より3週間限定モーニングショー!!

入場料金

当日一般:1,500円 大学・専門生:1,300円 中高シニア:1,000円 小学生:700円 前売券:1,000円 母娘割引:2,000円(2名で)



ポレポレ東中野

TEL 03 3371 0088
www.mmjp.or.jp/pole2/
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分



FUNTel

FUNTel Inc. <http://funel.wv>

OFFICIAL WEBSITE
<http://mwdc.net>